

初め富田屋五兵衛又は長兵衛というたが、明治の後杉野長松と改めた。俳諧は之を年風に學び、不識庵と號し、江波の後を受けて翠臺を繼席し、趙翠臺、鳥翠臺、長翠又は麻水西堂人ともいうた。明治十八年四月二十日歿、享年七十五。

スギノミツ 杉ノ水 江沼郡奥山方に屬する部落。

スギノミツイシ 杉ノ水石 江沼郡杉ノ水から出で、分解した石英粗面岩の今尙岩脈をなすもので、九谷燒の原料に供せられる。

スギノメイ 杉野盟 通稱善三郎・多助。明和二年養父善兵衛近方の遺知三百石を襲ぎ、御馬廻に班し、改作奉行に任じ、寛政四年物頭並より次第に昇進して御馬廻頭に至り、文政七年定番頭となり、同年致仕して晩霞と號し、料三百石を受け、天保中九十歳を以て歿した。

スギノヤ 杉野屋 羽咋郡昌知院内菅原庄に屬する部落。道典の廻國雜記に『又杉野屋を通るとて、待人の思ふしるしの見えねども問はではいかで杉野屋の里。』といひ、又能登名跡志には『杉野屋村、往來より少し山の手に有。土屋氏の十村役あり。又吉信と云百姓あり。此村の氏神は運慶作の不動尊也。』とある。杉野屋と菅原との領界に天王松といふ大樹があつたが、嘉永頃に枯れた。本村はもと菅原下村といふたとの説があるが信じられぬ。

スギヒラ 杉平 鳳至郡川原田郷に屬する部落。

スギヒライシ 杉平石 鳳至郡杉平から産する石材。赤石とも稱する。代赭石で、赤鐵礦の粉末と粘土とを混じ、質硬く粗雑である。

スギムラブニイチ 杉村文一 加賀藩士杉村寛正の弟。文久元年生まる。文一年少にして國事を憂へ、深く長連豪と交つた。十年西雨の役起つた時能登の七尾に居たが、九月金澤に出で、連豪及び島田一良と盟約し、十二月東上して、十一月十五日参議大久保利通を紀尾井町に暗殺し、七月廿七日斬刑に處せられた。時に年十八。

スギモトオトギク 杉本乙菊 嘉永二年金澤に生まる。父作左衛門は加賀藩に仕へて二百石を受けた。乙菊平生島田一良の爲人を慕ひ、遂に相謀りて明治十一年五月十四日参議大久保利通を東京紀尾井町に暗殺した爲、七月廿七日斬刑に處せられた。時に三十歳。

スギモトクジウロウ 杉本九十郎 九十郎は青地彌四郎蕃宣の配下に屬する歩士杉本三丞義隣の嫡子で、年十六であつた。寶永五年四月朔日の夜九十郎隣家紺屋伊兵衛の家に至り、その僕勤助と碁を圍んで居たが、町奉行所屬の小川七丞の子太郎三郎は傍に在つて屢勤助に助言を與へた。太郎三郎は十三歳であつた。九十郎乃ち之を戒めたが、太郎三郎は服せずして罵詈雑言、九十郎が先に家を出たのに跟隨して來て、卑怯者逃げるなと呼んだから、九十郎は嚇怒して太郎三郎を斬り、二日の夜遂に死に至らしめた。藩因つて九十郎を組頭の家に移し、九日更に竹田宇右衛門の邸に納し、廿九日切腹せしめた。九十郎驥幹短少、尙振袖を着して居たが、その舉止從容、大に見る者を感じしめた。この事は鳩巢の駿臺雜話に載せられて、普く世に知られて居る。當時父三丞は江戸に在つたが、鳩巢書を以て、九十郎が青年の氣象あるを以て、假令

死を賜はるもその動作必ず怯懦なることなかるべきが故に、心を安んじて可なりと告げたが、三丞は之を人に示して、鳩巢のいふ所此くの如きも、幼兒に灸を點せんとするや、初は畏怖の色なきも、火を執つて之に對する時は涕泣するものである。吾が兒亦年少、その自凡の状態して如何なりしかを聞くにあらざれば心を安んずるを得ずといふた。鳩巢は、この父なくばこの子あらじと評した。三丞の妻も亦烈婦で、九十郎が組頭の家に移されんとした時別盃を汲んで門外に送り、一滴の暗涙をも浮べなだると、彌四郎の書簡に記してある。

スギモトサクザエモン 杉本作左衛門 越前府中に於いて前田利家に仕へた。子孫世々藩の祿を受ける。

スギモトシロエモン 杉本四郎右衛門 初め朝倉義景の臣で、後越前府中に於いて前田利家に仕へ、祿百五十石を受けた。嫡子次郎左衛門五百石に陞り、利常に仕へたが、その子覺丞延寶五年に自殺して斷絶し、四子四郎左衛門の系は永く藩に仕へた。

スギモトノリツネ 杉本敬典 通稱正藏・作右衛門。延享十三年新番、天明六年新知百五十石を受けて同小頭に任じ、寛政三年五十石を加へ、組外に列して江戸御廣式番となり、寛政七年歿した。

スギモトミチナカ 杉本徳中 通稱清順・伴七・彌左衛門。初め御居間坊主。享保十一年御歩となり、元文五年新知百石を受け、後五十石を加へて組外に列し、南御土藏奉行となつた。子孫相繼いで藩に仕へる。

スギモトミワスケ 杉本美和介 幼名駒太

郎。七歳にして江戸に赴き、藩侯の世嗣前田慶寧に近侍し、九歳の時金澤に歸りて近習を罷め、後大小將横目に進み、明治戊辰の役に一隊を率ゐて越後に入り、大に戦功を立てた。歿する時齡五十六七であつた。

スギモトモリノリ 杉本守典 通稱銀右衛門。初め定番御歩御近習となり、文化五年新知百石を受けて組外に列し、天保十一年七十歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

スギモトヨシチカ 杉本義隣 通稱三丞。前田綱紀に仕へて定番歩士であつた。元祿中赤穂義士の復讐の擧あるや、義隣の江戸より齎した報告は、鳩巢が義人録編輯の資料となつたものである。寶永六年義隣藩命を奉じ、長壽の隠士渡邊幸庵に就きて其の見聞した所を徴し、之を録して幸庵物語と題した。義隣の子は少年にして切腹を命ぜられた九十郎である。

スギモリ 杉森 能美郡輕海郷に屬する部落。祇院寺藏貞和三年五月二日河内庄惣領藤原重宗の寄進狀に『賣渡加賀國河内庄内相森野半分事云々。』とある。河内庄は石川・能美二郡に跨つてゐたのである。

スギモリ 杉森 鹿島郡高田保に屬する部落。

スギヤマ 杉山 珠洲郡正院郷に屬する部落。元祿十四年の郷村名義抄に『往昔此所大立出來に付、杉山村と申由申傳候。』とある。

スギヤマタカシゲ 杉山隆重 通稱小助。實は後藤新兵衛の子で、杉山小左衛門に養はれたもの。天正十六年前田利家に仕へた。子孫世々藩に相襲く。

郎。七歳にして江戸に赴き、藩侯の世嗣前田慶寧に近侍し、九歳の時金澤に歸りて近習を罷め、後大小將横目に進み、明治戊辰の役に一隊を率ゐて越後に入り、大に戦功を立てた。歿する時齡五十六七であつた。